

- 1 日 時
令和4年5月16日(月) 3～4時間目(10:45～12:35)
- 2 場 所
北海道羅臼高等学校 1階 図書室
- 3 学 級
普通科 第3学年4名(男子4名)
- 4 学 級 観
羅臼の海洋環境に関心を持っている生徒集団である。
羅臼町の水産業の現状や課題について理解を備えており、独自の意見を持っている。
自然と人間生活の関わりを持続可能な社会への課題ととらえ、発展的に解決するための提言や発信する能力を高めることを目指している。
- 5 単元の目標
 - (1) 羅臼の海洋環境の変化について現場の意見を聞き、海洋生物について総合的に学ぶ。
 - (2) 根室海峡に生息する生物の資源としての有用性や持続可能な利用のあり方について理解する。
 - (3) 自然と人間生活の関わりを持続可能な社会への課題ととらえ、発展的に解決するための提言や発信する能力を高める。
 - (4) 学習活動によって得られた知見を他者との協働を通して自分の考えや意見をしっかり持ち、地域の課題解決に向けた提言ができるようにする。
- 6 指導計画(全14時間)
課外活動
 - 1節 水産教室開級式記念講演(2時間)
 - 2節 SDGsプログラム(2時間)<本時>
 - 3節 観光プログラムの開発(2時間)
 - 4節 プレゼンテーション学習(2時間)
 - 5節 水産教室閉会式記念講演(2時間)
- 7 本時の目標及び評価基準
本時の学習活動・授業展開
 - 2節 SDGsプログラム(1時間目、2時間目)
 - (1) 本時の目標
 - ① 根室海峡に生息する生物の資源としての有用性や持続可能な利用のあり方について理解する。(知識・技能)
 - ② 自然と人間生活の関わりを持続可能な社会への課題ととらえ、発展的に解決するための提言や発信する能力を高める。(思考・判断・表現)
 - ③ 学習活動によって得られた知見を他者との協働を通して自分の考えや意見をしっかり持ち、地域の課題解決に向けた提言ができるようにする。(主体的に学習に取り組む態度)

(2) 評価基準

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
自然観察に係る基本的な知識の習得ができており、正しい自然観をもつことができる。	自然観察に係る知識に基づいて科学的な視点で自然を観察・理解することができる。	自然について論理的に思考する重要性を認識し、学習に取り組んでいる。

8 本時の展開

時間	指導過程	生徒の学習活動	教師の活動及び指導上の留意点	評価の観点	評価方法
5分	授業の導入	・授業開始の挨拶 本時の授業内容の理解	・本時の授業内容の説明 「海洋生物では何を学ぶのか」	②	指導の観察
10分	担当者の紹介	・羅臼町教育委員会担当者、羅臼町漁業協同組合担当者の紹介に注目する。	・生徒へ担当者を注目し、内容を聞く姿勢を取らせる。		
15分	開級式特別講演の内容についての復習	講演内容1 世界中のSDGsの取り組みについて、まとめたことを発表する。	講演内容1 世界中のSDGsの取り組みについてワークシート内容の振り返りをする。	③	前時活動の観察ワークシート
20分	開級式特別講演の内容について自分なりの意見を発言する。	講義内容2 高校生でもできるSDGs 羅臼町において現在の課題である「人口減少」「少子高齢化」「漁獲量の不振」等、課題解決について自分なりの意見を発言する。	講義内容2 高校生でもできるSDGs 羅臼町において現在の課題である「人口減少」「少子高齢化」「漁獲量の不振」等、課題解決について生徒に発言の機会を与える。	③ ①②	前時活動の観察ワークシート 活動の観察ワークシート
20分	担当者からの発問 ・海洋生物の分類 ・海洋生物の食物連鎖	担当者からの発問を聞く。 海洋生物の分類について、今まで得た知識から回答をする。 海洋生物の食物連鎖について、今まで得た知識から回答をする。	担当者からの発問に対して積極的に回答を促す。	①②	活動の観察ワークシート 活動の観察
20分	担当者からの発問 ・根室海峡の鯨類と世界の鯨類 ・海に生息する無脊椎動物	根室海峡の鯨類と世界の鯨類について、今まで得た知識から回答をする。 海に生息する無脊椎動物について、今まで得た知識から回答をする。	担当者からの発問に対して積極的に回答を促す。	①②	活動の観察ワークシート 活動の観察
10分	本時のワークシート記載	本時に復習、発言した内容をワークシートにまとめる。	・学習活動によって得られた知見をクラス内で共有することによって自分の考えや意見をしっかり持ち、地域の課題解決に向けた提言ができるよ	③	活動の観察ワークシート

			うにする。(主体的に 学習に取り組む態度)		
--	--	--	--------------------------	--	--

1 日 時

令和4年7月20日(水) 5～6時間目(13:20～15:10)

2 場 所

羅臼町漁業協同組合ウニ種苗センター

3 学 級

普通科 第3学年4名(男子4名)

4 学 級 観

羅臼の海洋環境に関心を持っている生徒集団である。

羅臼町の水産業の現状や課題について理解を備えており、独自の意見を持っている。

自然と人間生活の関わりを持続可能な社会への課題ととらえ、発展的に解決するための提言や発信する能力を高めることを目指している。

5 単元の目標

(1) 羅臼の海洋環境の変化について現場の意見を聞き、海洋生物について総合的に学ぶ。

(2) 根室海峡に生息する生物の資源としての有用性や持続可能な利用のあり方について理解する。

(3) 自然と人間生活の関わりを持続可能な社会への課題ととらえ、発展的に解決するための提言や発信する能力を高める。

(4) 学習活動によって得られた知見を他者との協働を通して自分の考えや意見をしっかり持ち、地域の課題解決に向けた提言ができるようにする。

6 指導計画(全14時間)

課外活動

1節 ウニ種苗センター見学(2時間)

2節 羅臼漁協市場、加工場、販売店舗見学(2時間)

3節 鮭採卵・受精等学習(6時間)

4節 鮭トバ加工実習(4時間)

7 本時の目標及び評価基準

本時の学習活動・授業展開

1節 ウニ種苗センター見学(1時間目、2時間目)

(1) 本時の目標

① 根室海峡に生息する生物の資源としての有用性や持続可能な利用のあり方について理解する。(知識・技能)

② 自然と人間生活の関わりを持続可能な社会への課題ととらえ、発展的に解決するための提言や発信する能力を高める。(思考・判断・表現)

③ 学習活動によって得られた知見を他者との協働を通して自分の考えや意見をしっかり持ち、地域の課題解決に向けた提言ができるようにする。(主体的に学習に取り組む態度)

(2) 評価基準

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
自然観察に係る基本的な知識の習得ができており、正しい自然観をもつことができる。	自然観察に係る知識に基づいて科学的な視点で自然を観察・理解することができる。	自然について論理的に思考する重要性を認識し、学習に取り組んでいる。

8 本時の展開

時間	指導過程	生徒の学習活動	教師の活動及び指導上の留意点	評価の観点	評価方法
5分	授業の導入	<ul style="list-style-type: none"> 授業開始の挨拶 本時の授業内容の理解 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の授業内容の説明 生徒へ発言、質問を出すよう促す。 	②	指導の観察
15分	移動	<ul style="list-style-type: none"> 羅臼町教育委員会車輛にて移動 			
20分	漁業協同組合 ウニ種苗センター 担当者ター訪問	<ul style="list-style-type: none"> 担当者の説明を聞く。 ウニ種苗の人工授精、飼育作業見学 カレイ養殖作業見学 	<ul style="list-style-type: none"> ウニ種苗センター設置の意義についての説明 ウニ種苗の人工授精、飼育作業工程 カレイ養殖作業工程 	①②	活動の観察 ワークシート
15分	担当者への質問	<ul style="list-style-type: none"> ウニ種苗センター設置に関する質問 ウニ種苗の人工授精に関する質問 カレイの養殖に関する質問 羅臼における水産資源に関する質問 	<ul style="list-style-type: none"> 質問に対する回答 	③	活動の観察 ワークシート
15分	移動 帰校				活動の観察 ワークシート
15分	ワークシート 記載	<ul style="list-style-type: none"> 見学内容、質問に対する回答のないようにして本時に学んだことをワークシートにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 羅臼に生息する水産資源としての有用性や持続可能な利用のあり方について理解する。(知識・技能) 自然と人間生活の関わりを持続可能な社会への課題ととらえ、発展的に解決するための提言をまとめる。(思考・判断・表現) 	① ②	活動の観察
15分	ワークシートに記載した内容をクラス内で共有する	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートにまとめた内容について発表し合い、他人の意見を参考にしてまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習活動によって得られた知見をクラス内で共有することによって自分の考えや意見をしっかり持ち、地域の課題解決に向けた提言ができるようにする。(主体的に学習に取り組む態度) 	③	